

すぴか書房 ☆ 書籍目録

Original Publisher, since 2004

Catalogue No.3

2015.12

最新刊

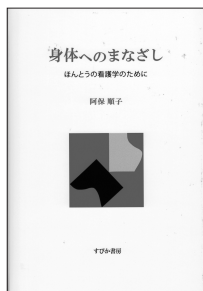
身体へのまなざし

ほんとうの看護学のために

阿保 順子 [著]

四六判(上製) 169頁 2,500円(本体価格)

こころとからだ、あるいは主観と客観の二分法は科学のための便法に過ぎない。人は心身一如たる身体として生きている。臨床は身体的な営みの場。それを捨象した看護学は不毛である。著者があたためてきた身体への関心を看護学基礎論として世に問う。日常的思索と研究的達成が一体となって、豊かな知の地平がひらかれる。「私自身のほんとうの関心にしがうことが、看護学の可能性をひらくことにつながるという確信だけはある。」(著者)



ISBN978-4-902630-24-4

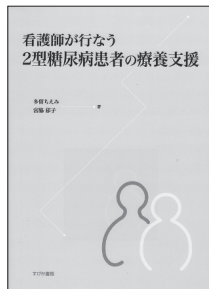
■著者(あぼじゅんこ):
長野県看護大学名誉教授

[目次抜粋]

はじめに 身体という言葉 1章 身体一からだでもなく、こころでもなく 日々の暮らしの中で●科学が説明してくれないこと●デジャ・ビュ deja vu ●「えもいわれぬ」感覚 病気体験のさなかに●コントロールが及ばない体に恐怖する身体●ケアする手は身体の境界をこえる●希望をもたらず言葉 自分とは? ●じつと手を見る●解離 患者さんの自殺にまつわる体験●予兆●「事後」にしかわからないこと●徴候・予兆と予知とのあいだ 2章 身体の底をみる一重認知症患者の行動観察をととして 原初的身體●言葉と身体●「さわる」行動の意味●感動する身体●相互依存的な身体 身体所有●自己の成立●自分から離れてしまう身体 還っていく身体●見当識障害の進行●自己接触行動 徘徊の理由●なぜ歩きはじめたのか●未知なる世界の入口に立つ不安と恐怖●還るべき場所 3章 身体の変容一精神病を患う人々が経験している身体 自他を区別する境界線●ほどよい自我●脆弱な自我●ホメオスターシスの崩壊 自己が霧散してしまっただ身体●患者が語る発病時の身体●自分と周囲環境が逆転する●感覚の異常

●時間が「乗っ取られる」未分化な身体への逆行 統合失調症急性期の看護●保護膜という考え方 4章 看護技術と身体 相互浸透する身体●清拭する手の力●能動と受動の反転 ●技術はどのように発揮されるのか●適用の背後にあるもの 看護手順●非侵襲的に接近し、非侵襲的に触れる●気づかい 実習の意味 技術の修得●反復 5章 関係としての身体一身体多重性、全体性、現場性 身体多重性●意識的身体●オノマトペ的身体●“領域”としての身体●病気にあける身体の変異●「触れる」ということ●時間の拡張 身体形成 ●社会によって、時代によって変容する身体 ●「こころ」と「からだ」に分かれた身体●老いの進行と身体 間身体的な現象 身体全体性 見えるということの関係性 身体現場性 6章 身体理論と看護学 ●看護理論における身体論の不在●なぜ身体現象に目を向けるのか●人間とは何かという問い●専門看護師にみる実践力●CNS教育と看護学●臨床で発揮されている看護師の実力 7章 身体生成、認識、つながり(インタビュー)三浦雅士 (2015.7)

看護師が行なう 2型糖尿病患者の療養支援



多留ちえみ 宮脇 郁子 [著]

B5判 2色刷 173頁 3,700円 (本体価格)

看護師が行なう療養支援は患者を理解することから始まり、患者が自らの持てる力を最大限発揮できるように関わることである。

自己管理行動を継続することは本人の生活にどのような影響があるのか、食べることはどのような意味を持っているのか。「患者に尋ね、教えてもらう」方法に徹した研究が重ねられた。そして、慢性看護の本質が問い直され、看護が変わる。看護師にこそできる支援の追求。

ISBN978-4-902630-23-7

■著者：たるちえみ(神戸大学大学院保健学研究科保健学研究員)
みやわきいこ(神戸大学大学院教授)

[主要目次]

序章 患者の声に耳を傾ける

第1章 患者の行動と心理を知る 1 食事療法を続けるということ 2 患者が自ら行なっている工夫や努力 2 型糖尿病患者の食事自己管理行動質問紙の作成 3 運動療法(推奨された身体活動)に関する自己管理行動 2 型糖尿病患者の身体活動調査票の開発 研究の要約●2 型糖尿病患者の食事自己管理行動質問紙の作成●2 型糖尿病患者の身体活動調査票の開発

第2章 患者の経験を知る 肯定的な感情と否定的な感情 1 患者自身が語ることの意味 2 患者の語りにもみる自己管理行動に伴う経験 3 助言の受け止め方 4 患者の感情傾向と看護支援 5 承認欲求を満たす 研究の要約●2 型糖尿病患者の自己管理行動の実施に伴う経験

第3章 食事療法の負担感に焦点をあてた面接 1 食事療法に伴う患者の負担感 2 負担感の表出否定的な感情を語ることの効果 3 頑張る力を充填する 研究の要約●2 型糖尿病患者の食事療法負担感尺度の開発

第4章 看護研究と実践 1 「自己管理行動」に研究の焦点が定まるまで 2 患者に学ぶ 選択肢は患者自身の経験の中にある 3 慢性看護研究の原動力

第5章 研究結果の解釈と活用 1 食事摂取量に関係する要因 2 食事に関する自己管理行動の特徴 3 肥満度(BMI)と運動量(歩数)と食事摂取量との関連 4 自己管理行動を規定する背景要因 5 食事の内容 メタボリックシンドロームとの関連 6 食事療法と運動療法の併用効果 7 塩分制限の効果

第6章 患者教育 慢性看護学における基本概念 1 食事療法の困難性 2 disease と illness 3 療養支援における患者教育の本質 4 適応 5 適応を妨げているもの 6 質問のスキル 7 患者の考えを聞く 行動には必ず意味がある 8 ステigma stigma 9 リフレクション 看護師自身の成長を可能にするもの

第7章 現代の食生活と生活習慣病 同時代を生きる人間としての療養支援 1 社会構造の変化と私たちの生活 2 遺伝的要因と環境的要因 3 食物と食事を取り巻く状況 4 食品に対する不信と不安 健康志向の高まりの中で 5 食を大切に 2 型糖尿病の療養支援者として

《付録》 療養支援に活かす質問用紙 自己管理行動質問紙 食事療法負担感質問紙 修正版簡易食事摂取調査票

(2015.5)

がん看護から

がん看護の魅力—私たちが
看護師でありつづける理由



ISBN9784-90263022-0

荒川唱子 編 がん看護研究会 著

A5判 151頁 1,800円 (本体価格)

福島の地で研究会を続ける看護師たちの声—
自らの原点、仕事の喜び。草の根の看護論！

〔主要目次〕 カッコ内は執筆者

I それぞれのがん看護 私の大切な教師たち(安斎紀) 基本的なケアこそ(橋本淳子) 私の原点(舟山明美) 少しでも心身が楽になりますように(土谷恭子) がん看護への道(熊田市子) 緩和ケアへの関心(崎山栄子) 考えつづけていくからこそ得るもの(星野聡子) がん看護に魅せられて(荒川唱子) がん看護の質的向上を目指して(渋谷登代) 残された時間を大事に過ごし「最後の仕事」を果たした看護師Yさんのこと(富永昭子) 支え合いと感謝の気持ち(清水千世)

II 一歩先へ—看護にできることの追求 看護の多様性と創造性(小石澤ゆかり) ホスピタリティになったシアワセ(戸室真理子) 同じ看護の一日はない(氏家由紀子) ターミナルケアの魅力(久保木優佳) 「自分で自分のことを決める人が増えるから、手伝ってあげてね」(藤本順子) 思いを理解しよう(後藤郁子) ホスピタリティとして、緩和ケアチーム専従看護師として(千葉久美子) がん看護の道を歩む原動力(幕田望) 臨床が好きだからそこにいる(保坂ルミ) III 明日に向かって(座談会)

■編者(あらかわしょうこ): 福島県立医科大学名誉教授

(2014.12)

高齢者のせん妄

安心を届けるケアと介護の心得

守本とも子 編

A5判 2色刷 141頁 2,000円(本体価格)

高齢者はせん妄を起こしやすい。しかし、速やかに経過させることができる。そのための心得を平易に説明。知っていれば介護者も安心。



ISBN978-4-902630-21-3

〔主要目次〕 第1章 せん妄とは何か せん妄とはどのような状態? せん妄の発症因子 第2章 せん妄に気づく どんな症状がせん妄の始まり? せん妄を予測してみましょう せん妄かどうかを判断するには せん妄を起こすきっかけ 第3章 せん妄を起こしやすい状況—こわれやすいところへの思いやり 高齢者はなぜせん妄を起こしやすいのか 手術後せん妄 病気の苦痛 アルコールや薬物 電解質の異常 夜間せん妄 環境の急変 第4章 せん妄が起きてしまったら 症状への適切な対応 安全の確保 人格の尊重 環境の整え 薬物

治療について 第5章 健康維持と生活行動支援 観察の重要性 援助の基本姿勢 身体的健康の維持 「できる力」を発揮させる援助 低活動型せん妄を伴う人への援助 意思決定の援助 第6章 せん妄ケアの実例 事例●病室移動によるせん妄●下痢による脱水(電解質バランスの異常)が直接原因と考えられたせん妄●複数の要因が重なり合って発症したせん妄●疾患(脳梗塞)によるせん妄●パーキンソン病に伴う認知障害がある人に現われた異常行動●認知症と誤認されやすいせん妄●強い痛みによるせん妄●終末期せん妄

■編者(もりもとともこ): 奈良学園大学教授 ■執筆者: 野中浩幸、酒井千知、奥百合子、川口ちづる、大谷須美子、川田美和、鎗内希美子、大西恵、横嶋清美、山田ゆきこ

(2014.10)

ケアリング プラクシス

マーガレット ニューマン拡張する意識としての
健康の理論と看護実践・研究・教育の革新



ISBN978-4-902630-20-6

キャロル ピカード
ドロシー ジョーンズ 編著

[監訳] 遠藤恵美子

A 5 判 344 頁 4,500 円 (本体価格)

理論的であることは、すなわち実践的である。理論がケアリングあふれる実践を導き、探求への問いとなり、変革のプロセスを導く、理論・研究・実践の統一体を praxis と呼ぶ。M. ニューマンの理論に基づくプラクシスの多彩な実例集。実践の“典型”を随所に織り込む。M. ニューマンと J. ワトソン、C. ロイがケアリングと理論の将来について語り合った記録を収載。

[主要目次]

序：マーガレット A ニューマン

I 看護学の核心

1 章 人間の健康体験におけるケアリング

2 章 看護学への貢献

3 章 看護倫理とケアリング

II ケアリング プラクシス

4 章 終末期ケアにおける拡張する意識としての健康

5 章 術前外来におけるスタッフと患者のための治療環境の創造

6 章 理論的であるということは、すなわち実践的である。

7 章 家族の健康を支援する看護プラクシス

8 章 地域におけるケアリングの実践

9 章 “安らぎ領域”の創出：認知症と共に生きる人々のリズムとパターン

10 章 ケア環境の創造：看護管理の戦略

III プラクシスとしての研究

11 章 芸術的表現とパターン認識

12 章 双極性障害のある子供の両親とパターン認識

13 章 アクションリサーチチームの創出

14 章 多発性硬化症と共に生きる女性たちの人生パターンの認識

IV 教育

15 章 精神看護教育のプラクシス

16 章 大学院高度実践看護コースでのパターン認識能力の育成

17 章 救命救急場面におけるケアリングの典型例

V 対話と会議

18 章 やがて理論は収束に向かうのであろうか：ニューマン、ワトソン、ロイとの対話

19 章 理論の現在

20 章 ニューマン理論の影響力

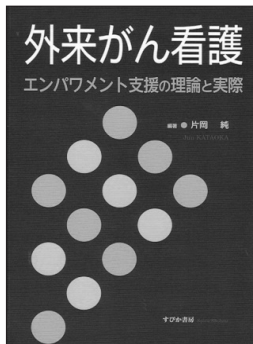
■監訳者(えんどうえみこ)：ニューマン理論・研究・実践研究会会長、武蔵野大学看護学部特任教授

■訳者：遠藤恵美子、小笠原利枝、千崎美登子、高木真理、坪井 香、永井庸央、松原康美

(2013.4)

外来がん看護

エンパワメント支援の理論と実際



ISBN978-4-902630-19-0

片岡 純 編著

B5 判 173 頁 2,600 円 (本体価格)

入院期間短縮に伴う外来治療への移行、がんと共に生きる時代となり、外来での看護の重要性がますます高まる今日、がんサバイバーのエンパワメントを支える外来看護の実際を「みえる化」、その意義を明らかにした。

スペシャリストナースによる外来での看護事例集に、看護師の実践を支えるための理論的な探求(エンパワメント支援の看護論)を加えた。外来に勤務する看護師のためのがん看護の指針。

[主要目次]

1 章 外来がん看護の展望

1 病院の顔としての外来看護 2 外来看護実践システムの整備 3 患者の主体性を育む看護援助プログラム

2 章 外来におけるがんサバイバー支援

1 がんサバイバーシップ 2 がんサバイバーが抱える課題 3 がんサバイバーのためのサポート

3 章 こころのケア 認知行動療法的な介入

1 がんに対するこころの反応 2 外来通院患者にみられるこころの問題 3 認知行動療法を看護に活かす

4 章 緩和ケア 外来における症状コントロール支援

1 緩和ケアの現在 2 外来における緩和ケ

ア 5 章 外来がん看護事例集 エンパワメント支援の実際

①化学療法室で ②放射線治療科で ③乳腺科外来で ④栄養・嚥下外来で ⑤ストーマ外来で ⑥リンパ浮腫外来で

第6章 エンパワメント支援の看護論

1. エンパワメントとは 2. 道程の伴走者 3. エンパワメント支援の外来がん看護

3-1 がん罹患の心理的衝撃や、がんと共に生きることに伴う苦悩に対する援助 3-2 意思決定を支援する 3-3 治療・副作用・後遺症に伴う諸問題への対処能力を高める 3-4 地域でその人らしい生活を営むことへの支援

3-5 再発や病状悪化の不安に対する援助 3-6 がん罹患を自己成長の契機とし《自分なら乗り越えられる》と思えることへの支援 4. 状況の意味から実存の意味へ ●●結論

■編著者 (かたおか じゅん): 愛知県立大学看護学部教授

■事例編 (2・3・4 章) 執筆者 (愛知県がんセンター中央病院 / 専門看護師・認定看護師): 新貝夫弥子、藤澤浩美、向井未年子、西尾里美、久保 知、瀬古志桜、青山寿昭、榎原由美子、阪元由美

(2013.1)

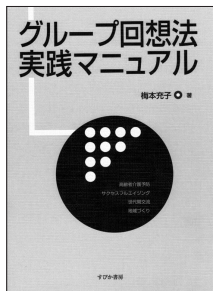
グループ回想法実践マニュアル

梅本充子 著

B5判 128頁 2,000円（本体価格）

高齢者介護予防、サクセスフルエイジング、世代間交流、健康な地域づくりに貢献するグループで行なう回想法のてびき。地域で行なうアクティビティ（レクリエーション）としての回想法の多彩なあり方を紹介。巻末の「実践事例集」は読むだけでも楽しい。「専門家による認知症を対象にした“療法”の解説ではなく、もっと広くさまざまな人が楽しく有意義に実践するためのマニュアル本が求められていると考えました」（著者）。

■著者（うめもとみつこ）：日本福祉大学教授



ISBN978-4-902630-18-3

【主要目次】

1章 回想法とは 1 回想法の起源 2 回想法の発展—地域活動の拠点としての回想法センター、イギリスの回想法センター 3 回想法の種類—グループでの回想法 4 回想法の意義と効果—サクセスフル・エイジング、介護予防から地域づくりへ、プロダクティブ・エイジング

2章 グループ回想法の実践 1 計画と準備—目的、事前の計画／ルール（参加者との約束事）／テーマの選定、材料・道具の用意 2 セッションのすすめ方と手順—実施前、実施中、実施後

3 観察と記録 4 評価—評価の方法、健常高齢者の場合、認知症高齢者の場合、効果評価の概要 a 認知機能検査 b 行動観察評価尺度 cQOL 評価 d その他

3章 展開の方法 17のポイント 1 回想を促す—こんなとき、どうする 2 懐かしい道具を使う 3 触覚、味覚、嗅覚の刺激 4 写真を使う 5 音楽や音を使う 6 動作を行なう 7 絵を描く 8 展示物を製作する 9 寸劇を演じる 10 お出かけ回想法 11 案内する

12 記念作品 13 昔と今を関連させる 14 暗記したものを披露する 15 「思い出リスト」の作成 16 地図を使う 17 年表を使う 《お出かけ回想法マニュアル》

4章 リーダーとコ・リーダー 1 リーダー、コ・リーダーの必要性和役割／リーダーの役割、コ・リーダーの役割、教育と自己研鑽 2 リーダー、コ・リーダーの技法／よい聞き手になる（傾聴）、質問のしかた、励ましと言いかえ、感情・情動に応える（共感）、相互交流を促す

5章 実践事例集

1 青年団の思い出から「愛染かつら」上演へ…ハイライト（5回目のグループ記録）／「愛染かつら」の脚本

2 お手伝いの思い出をもとに寸劇を創作…「お手伝いの思い出」2回目のグループ記録抜粋／脚本『母の背中』

3 懐かしい音の回想から音地図作成…セッションの実践（逐語録抜粋）

（2011.8）

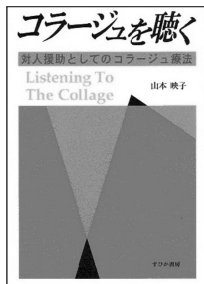
コラージュを聴く

対人援助としてのコラージュ療法

山本映子 著

A5判 160頁 2,400円（本体価格）

コラージュ療法に魅かれ、導かれ、活用を広げてきた著者ならではのガイドブック。著者のコラージュの原点は看護教員として入った精神科病棟でのレクリエーション療法でのSさんとの出会いであった。以来、医療（治療）者としてでなく、同行（どうぎょう）する援助者として、多くのケースとかわる。彼らの実に多彩な作品例を紹介しつつ「コラージュの声を聴く」方法を説く。「私をとらえて離さないコラージュの魅力を伝えたい。感動を分かち合いたい。」（著者）



ISBN978-4-902630-16-9

【主要目次】

1章 コラージュ療法とは 1. コラージュとは 2. コラージュ療法とは 3. コラージュ療法を意味づける理論 4. コラージュ療法の対象
2章 コラージュ療法のすすめ方 1. 準備するもの 2. 導入 3. 制作 4. 制作後 5. 作品の取り扱い
3章 コラージュの評価 1. コラージュを評価するとは 2. コラージュの治療要因 3. コラージュ制作の治療効果
4章 作品のみかたと解釈 1. 「解釈しない」ことを原則とする 2. アセスメント（判断軸） 3. 形式分析／内容分析
5章 精神科医療の場で 1. 統合失調症の患者さんと：事例—コラージュが生きがいとなったSさん、急性期の患者が示した関心と参加意志、回想法としてのコラージュ、美意識を満足させるコラージュ作品、2. その他の入院患者さんと：てんかん、うつ病、心因反応ほか：事例—ファンタジーの世界を生きる1年間の旅、「コラージュは病気であることを忘れさせてくれます」、落ち着き

を得るまでの心の軌跡、欲求、願望の表出によるカタルシス効果、喪失体験を克服したLさん、裏コラージュ 3. 感性で聴く
6章 老人保健施設で認知症高齢者と 事例—11. 穏やかな集中—記憶は生きている 2. 回想法としてのコラージュ 3. 満足と生きがい
7章 子どもたちと 事例—1. 小中学校で 2. 母と子のコラージュ 3. 不登校児童・生徒支援に活かす；適応指導教室におけるコラージュ「明日から学校へ行きます。」 4. 宿題コラージュ法《不登校児支援における宿題コラージュ法・かばん登校の効果—小学校1年次より毎年、不登校を繰り返す事例を通して》
8章 自己啓発 1. イニシャル コラージュ体験 2. 看護教育に活かす；護者としての適性に悩む学生の自己開示 3. 授業への導入 4. 対人援助者のためのセミナー《対人援助志向集団におけるコラージュの有効性に関する研究》

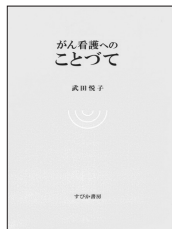
（2011.7）

■著者（やまもと えいこ）：元県立広島大学教授。広島コラージュ療法研究会主宰。日本心理学会認定心理士、日本カウンセリング学会認定カウンセラー・認定スーパーバイザー。

がん看護へのことづて

武田 悦子 著 [解説] 山元由美子

B6判 112頁 1,200円 (本体価格)



ISBN978-4-902630-17-6

がんとともに生きるなかで紡がれた、患者と看護をつなぐ言葉。心地よい援助(安楽)とは…基本的看護技術の素晴らしさ…日常生活の自律…外来看護の重要性…看護は患者その人に丸ごと立ち向かう仕事。「今ある生を輝かせて」逝った著者の遺稿を元に編まれた掌編。(2011.7)

■著者(たけだえつこ): 東京女子医科大学看護短期大学卒業。看護師として病院勤務等を経て山形厚生看護学校教員を11年間勤めた後、山形市内で家庭料理の店「きっちん おあしす」を営む。そのかわら看護のための講座を企画するなどの活動を地域で続ける。2007年12月乳がんが診断される。がんが皮膚へ転移し皮膚移植術を受け3か月の入院生活を送る。退院後、抗がん剤治療を受けながらリンパ・ドレナージの研修受講のため東京に通い、資格を取得して2010年7月「きっちん おあしす」隣にリンパ浮腫に悩む患者のためのエステサロンを開く。2011年3月30日逝去。享年55歳

☆すびか書房のいわれ

すびかは春から夏、南の空に昇るおとめ座の一等星。その響きは耳に美しく、純潔な精神性と、ささやかな希望への意志を喚起します。日本での名は真珠星とも。白く清楚に輝く星……出版物が高貴なる魂の結晶であることを願って!!

Spicaはラテン語で麦の穂。ギリシア神話で天のおとめ座になった正義の女神アストライアは、手に麦の穂を持つ姿に描かれます。スビカはそこに位置します。麦は冬の間に育ち、もっとも早く私たちを養う豊かな実りをもたらします。踏まれることで強くなり、空に向かってまっすぐな茎を伸ばす麦に、出版の理念を託しました。石原吉郎詩集に「麦」と題する詩があります。その一節を引用します。

穀物であるまに 勇気であったから
上昇であるまに 決意であったから
そうしてなによりも
収穫であるまに 祈りであったから

勇気、決意、祈りを創業の原点とします。すびか書房は出版物という麦穂を支える一本の「しずかな茎」でありたいと思います。

本心と抵抗

自発性の精神病理

笠原敏雄 著

四六判(縦組・上製) 304 頁

2,800 円(本体価格)

従來說(ストレス、心的外傷、精神分析、脳の病変等)では解けない、人間に特有な心因反応の仕組みを追う。人間は動物とは比較にならないほど高度な能力、徳性、自発性と意志を持っている。著者独自の〈幸福否定〉理論が、そんな人間に特有の精神病理に光をあてる。



ISBN978-4-902630-15-2

[主要目次] はじめに 1章“青木まり子現象”の意味―書店でトイレに行きたくする理由 2章片づけができない、落ち着かない 3章締切まじわの問題―締切近くまで課題に取り組めない理由 4章心理的原因を探る 1. 単発的な発症 5章心理的原因を探る 2. くり返される症状 6章マリッジ・ブルーとマタニティー・ブルー 7章子どもの虐待の裏側 1. 子どもへの愛情の否定 8章子どもの虐待の裏側 2. 母親に対する愛情の否定

■著者(かさはらとしお):心理療法家。早稲田大学第一文学部心理学卒業、複数の精神科病院に勤務。1996年〜東京都品川区に〈心の研究室〉開設

(2010.7)

自殺の看護

田中美恵子 編

A5判 232 頁 2,800 円(本体価格)



ISBN978-4-902630-14-5

看護師は自殺と遭遇することが少なくない。未遂者や危険(うつ病、希死念慮、自傷行為…)を抱えた患者とも直接かわる。話題にすることのタブーを破り、総合的に立ち向かうべき課題として“自殺看護学”を標榜した初めての本。

[主要目次]

1 自殺看護学総論 1章自殺の現状と予防への取り組み 2章うつ病の看護と治療的介入 3章自殺看護の臨床(アセスメント 看護介入 家族および周囲の人々へのケア 看護研究) 4章リスクマネジメント:病院組織としての取り組み 5章自殺に遭遇した看護師のケア(トラウマ体験 デブリーフィング 精神看護専門看護師の活用)

II 自殺の看護事例集 ●救命救急センターで ●精神科病棟で ●一般病棟で●子どもの自殺●看護師へのケアと看護管理支援

■編者(たなかみえこ):東京女子医科大学教授

■執筆者:小山 達也、笹 宗一、山内 典子、花田良重、岡田佳詠、八木こずえ、瓜崎貴雄、桑名行雄、田嶋佐知子、釜 英介、寺岡征太郎、木村里美、寺岡貴子、畠山卓也、北野 進、阿保真由美、三ヶ木聡子、中谷春香、土谷朋子、福田浩美、斎藤みよ子、近澤範子

(2010.7)

●関連書→自殺は予防できる (p15)

統合失調症急性期 看護マニュアル 改訂版

阿保順子 佐久間えりか 編

B5判 176頁 2色 2,400円（本体価格）

統合失調症急性期看護の「なぜ」「何のために」「どうする」を、阿保の“精神構造”理論によって明快に解説。目からウロコ（読者評より）、わかれば、できる！ 画期的マニュアルの誕生。「状態別ケアプラン」では精神構造の解釈から看護方針が導かれ、具体策が系統的に示される。今や本書をおいて精神科看護を語ることはできない。

[主要目次] 第1部 統合失調症急性期看護総論 第2部 ケアの方法；統合失調症急性期看護マニュアル ◆回復過程の各段階における看護の原則と具体策◆状態別ケアプラン 3部 事例集 付録 用語集 精神科看護に関連する法律

■編者：（あぼじゅんこ）長野県看護大学名誉教授、（さくまえりか）元北海道医療大学准教授

■著者（急性期精神科看護研究会）：阿保順子、田崎博一、佐久間えりか、笹木弘美、内田直子



ISBN978-4-902630-13-8

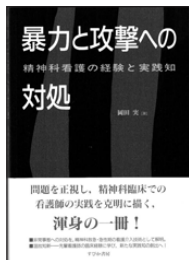
（2009.3）現在3刷

暴力と攻撃への対処 精神科看護の経験と実践知

岡田 実 著

A5判 200頁 2,600円（本体価格）

患者の暴力という非常事態への対処を精神科救急・急性期の看護介入技術として解明。護身術やリスクマネジメント以前に看護師として自問自答しつつ、先輩看護師の臨床経験に学び、実践を克明に描くこと…そこから新たな実践知の創出に挑んだ著者渾身の書。



ISBN978-4-902630-11-4

[主要目次] 序章 非常ベルが鳴るとき
I 問題の所在と研究の視座 1章 暴力の正視
2章 精神科救急・急性期看護をめぐる問題
3章 経験と実践知の収集；研究の動機、目的、方法
II 暴力と攻撃行動に対する看護介入技術 4章
基本的ケアの実践 5章 精神科救急・急性

期看護の原則と暴力への対処 6章 攻撃場面
の取捨 7章 幻覚・妄想状態を呈する患者への
対処 8章 突発的な攻撃に遭遇して
終章 臨床経験の共有から“範例”へ

■著者（おかだみのる）：長野県看護大学大学院教授

（2008.6）

考えるがん看護

水寄知子 著

四六判(縦組) 206頁 2,000円(本体価格)

「すること」を追い求めた看護師の「できること」がないことによる挫折。「そこにいる」ことをしなかった自分への気づきからはじまった看護とは何かの探求。がん治療に通う人々の語りを聴き、物語に書き移し、その意味を考える。「知らせる」のではない、患者ががんを「知る」のだ。患者とともに哲学する…そうして寄り添うこと自体が看護だった。マニュアルなどない「考える看護」の宣言。



ISBN978-4-902630-12-1

[主要目次]

- 1章 ゆらく看護観
- 2章 がん患者の語り
- 3章 語りの解釈と意味の理解
- 4章 考える看護—患者とともに意味を問いつける

(2008.12)

■著者(みずさきともこ): 神奈川県立保健福祉大学准教授

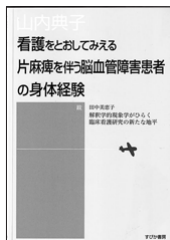
看護をとおしてみえる

片麻痺を伴う脳血管障害患者の身体経験

山内典子 著

A5判 208頁 3,000円(本体価格)

突然発症して救命され意識回復した脳血管障害患者は、以前とはまったく異なって感じられる自らの身体と向き合うことになる。回復に向かう急性期、彼らが生きる世界はどのようなものなのだろうか。著者は臨床の場で看護する只中に研究の視座を置き、患者自身が語る経験に耳を傾け記録した。その意味がハイデガーやメルロ＝ポンティの哲学を媒介に考察され、看護に直結する知として結実した。巻末には、質的看護研究をめざす者には必読の解説「解釈学的現象学がひらく臨床看護研究の地平」を付す。



ISBN978-4-902630-10-7

■著者(やまうちのりこ)
東京女子医科大学病院・精神看護専門看護師

■跋(巻末付章) 著者(たなかみえこ): 東京女子医科大学教授

[主要目次]

I 患者の経験を知る II 片麻痺を伴う脳血管障害の回復過程における患者それぞれの経験; 看護師としての参加観察記録 III 片麻痺を伴う脳血管障害の身体経験とその意味 IV おおりに; 看護実践の道しるべ

跋「解釈学的現象学が開く臨床看護研究の地平」(田中美恵子)

(2007.12)

認知症高齢者のリスクマネジメント



湯浅美千代 編

B5判 172頁 2,800円 (本体価格)

研究者と介護保険施設スタッフの協働によるリスクマネジメント活動推進の成果を紹介する。リスクマネジメントの真髄はよいケアの実践追求にあり！

職員の意識変革と主体性発揮による取り組みからは、介護のプロフェッショナルリズムの胎動が聞こえる。

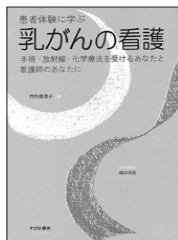
ISBN978-4-902630-09-1

[目次から] I 施設に暮らす認知症高齢者のためのリスクマネジメント…A リスクマネジメント総論 B リスクマネジメントとケア C リスクマネジメントの推進 II リスクマネジメント活動推進の実例…A 異食のあるAさんへケア検討会を起点とした取り組み B 事故防止委員会へ転倒事故を繰り返す高齢者へ C「予防」から「よいケア」への意識改革 D スタッフとの茶飲みミーティング III 認知症看護・介護を担うスタッフの育成 IV 介護保険施設における認知症高齢者のリスクとリスクマネジメントの実例

■編著者 (ゆあさみちよ): 順天堂大学大学院教授 ■著者: 酒井 郁子、野口美和子、小野 幸子、佐藤弘美、天津栄子、大塚眞理子、大和田豊子、諏訪さゆり、根本敦子 (2007.12)

患者体験に学ぶ 乳がんの看護

手術・放射線・化学療法を受けるあなたと看護師のあなたに



竹内登美子 著 (手記提供●嶋田君枝)

B5判 128頁 2色刷 2,100円 (本体価格)

乳がん体験者 (サバイバー) の手記を教材にして、乳がん看護の基本を説く。患者はどのような体験を強いられているのか…それを受けとめることがケアの出発点。重要ポイントは「看護師のあなたに」で詳述。医学知識も平易に解説。やさしく心にしみる講義は、患者となる (かもしれない) 人にもきっと役立つ。

ISBN978-4-902630-08-4

■著者 (たけうちとみこ): 富山大学大学院教授

[主要目次]

1章 乳がんと診断されるまで…1. 乳がんの検診
2. 乳がんを疑う 3. 乳がんのハイリスク因子
2章 外来で術前の化学療法を受ける…1. “乳がん告知”直後の患者心理…2. 乳がんの進行度 (病期 Stage) 3. 術前化学療法と副作用 4. がんの恐怖

3章 乳房切除術を受ける…1. 術前の看護 2. 術式と手術室における看護 3. 術後の看護
4章 退院後の生活と放射線療法…1. 術後の放射線療法 2. 退院後の生活 3. その後のフォロー
4. 再発と転移 5. 患者会とサポートネットワーク
手記より: ①～⑨ (2007.9)

歯周病が治る歯ブラシ法

大人のための歯ブラシ教室

大内 廣 著

A5判 128頁 1,400円 (本体価格)



ISBN978-4-902630-07-7

(2007.6) 現在2刷

歯ブラシ一本の使い方も奥が深い…“歯周病患者のプロ”が、自らの身をもって研究した成果を伝授する。虫歯予防の「歯磨き」ではなく、歯周病に有効な方法を徹底追求、それを「歯ブラシ法」と名づける。著者は元陸上自衛官、航空機整備の専門家。歯周病予防も航空機の整備も基本は同じく清掃にあり、との考えの下に書き下ろされた実技指南書。新聞(東京、中日、夕刊フジ)でも話題に。読者からは感謝の声多数。

【主要目次】

1章 歯ブラシの目的 2章 基本歯ブラシ 3章 歯科医の力を借りる 4章 応用歯ブラシ 5章 ゴムチップとうがい 6章 道具にこだわる 7章 歯と歯ブラシの雑学

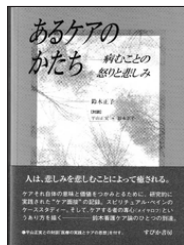
あるケアのかたち 病むことの怒りと悲しみ

鈴木正子 著

A5判 168頁 2,400円 (本体価格)

看護の核心＝ケアそれ自体の意味と価値をつかみとるために、ひたすらに実践された“ケア面接”という方法による研究の記録。クライアントに専心的に近づいてゆく面接過程をふりかえり、病者の苦悩と向き合う。…人は、悲しみを悲しむことによって癒される。巻末に平山正実(精神医学、死生学)との対談を付す。医療になぜケアがなくてはならないものなのか。ケア的なるものを擁護するために放たれた、熱き一冊！

●第4回日本医学哲学・倫理学会賞受賞



ISBN978-4-902630-06-0

【主要目次】

- | | |
|--------------------------|---------------------|
| 1章 序説—看護ケアの存在論 | 3章 病むことの怒りと悲しみ |
| 2章 ケアをつむぐ—看護実践研究としてのケア面接 | 4章 生きていく地平を開くケア |
| | 5章 [対談] 医療の実践とケアの思想 |

■著者(すずきまさこ): 前東都医療大学教授

(2006.11)

地域保健・福祉のスキルアップ

研修の企画・運営・評価のてびき



ISBN978-4-902630-05-3

岩永俊博 編著

A5判 136頁 1,900円(本体価格)

地域保健法では研修は保健所機能の柱とされる。地域保健・福祉の推進には専門職の技術研修や住民リーダー、業界リーダーを育てる研修が不可欠。グループワークや参加型研修のノウハウを伝える、研修を担当する職員のための基本的なテキスト。要所で住民向けの健康教育にもふれているので、地域で教育活動に携わる保健師のスキルアップにも好適。

■編著者(いわながとしひろ):ヘルスプロモーション研究センター

■共著者:浅野良一、佐藤卓、渡辺志保

[主要目次] 1章 受講者への気づき 1. 会場の工夫 2. 参加者紹介 2章 研修企画の基礎 1. 学習とは 2. 行動を変える 3章 研修の実践;導入、展開、まとめ 1. 導入の段階 2. 展開の段階 3. まとめの段階 4章 研修の企画において重要なこと 1. 研修ニーズの把握 2. 研修目的の設定 3. 研修プログラムの作成のステップ 5章 研修の評価 6章 研修企画の実践 (2006.10)

看護管理としての 看護情報支援システム の構築と運用

五島光子 著

B5判 164頁 2色刷

3,300円(本体価格) ●残部僅少



ISBN978-4-902630-04-6

IT化推進の波を「看護をよくする」ための課題として受けとめ、自前のシステムづくりを達成した看護管理としての実践記録。著者は岐阜大学医学部附属病院のシステム開発に看護師の立場で関わり、電子カルテ/看護情報支援システムの構築をリードした。システム化の手順紹介とともに、陥りやすい問題に対して「どうすればよいか」経験者ならではの助言を伝える。(2005.11)

[主要目次]

1章 病院をとりまく環境の変化 2章 情報システムの変遷とITに求めるもの 3章 看護部門の病院経営との関わり 4章 看護情報支援システムの構築手順 5章 業務フローの作成 6章 システム構築のための組織化 7章 仕様書の作成 8章 契約 9章 システムの開発 10章 システムの運用

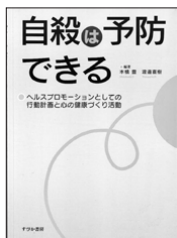
■著者(ごしまつこ):前岐阜大学医学部附属病院看護部長

自殺は予防できる

ヘルスプロモーションとしての
行動計画と心の健康づくり活動

本橋 豊 渡邊直樹 編著

B5判 212頁 3,300円(本体価格)



ISBN978-4-902630-03-9

●関連書
自殺の看護 (p9)

自殺予防にはヘルスプロモーションアプローチがふさわしい。豊富な活動歴をもつ編者らの熱い思いの結実。一次予防活動を推進するために編まれた待望の書。活動事例を多数紹介。自治体の事業展開を図るための「担当者のための行動計画策定ガイド」付。

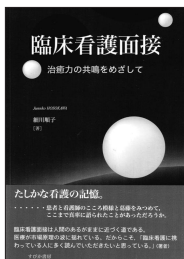
■編著者：(もとはしゆたか) 秋田大学教授、
(わたなべなおき) 元関西国際大学教授

【主要目次】

序章 原点の確認；ある精神科医の軌跡 1章 なぜ、自殺予防を公衆衛生の立場で行なうのか 2章 人はなぜ死のうとするのか 3章 自殺予防の戦略；世界と日本の現状 4章 自殺予防活動の実際 5章 保健師のための活動指針 6章 市町村における自殺予防対策のすすめ方 ●担当者のための行動計画策定ガイド 付録：心の健康づくりに向けた地域診断のための簡易調査票 7章 評価 (2005.10)

臨床看護面接

治癒力の共鳴をめざして



ISBN978-4-902630-02-2

細川 順子 著

A5判 240頁 2,500円(本体価格)

たしかな看護の記憶……患者と看護師のこころ模様と葛藤をみつめて、ここまで真率に語られたことがあったらどうか。人は対話をとおして自ら変わることができる。「患者は彼らを知ろうとする人の在り方によって、さまざまな姿を現わす。読者も、自身が出会った患者と自身を(本書のエピソードに)重ね、患者や私と対話し、あれやこれやを考えてほしい」(著者)。看護師であることへの勇氣を呼び覚ます、励ましの書。

【主要目次】

序章 患者からもらった宿題

1章 病むこと、患者になること、人として生きること

2章 家族の受難と対処

3章 援助が成り立つとき

4章 自己理解と洞察

5章 支持的・受容的・人間理解的アプローチ

終章 治癒力の共鳴をめざして

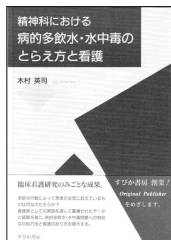
■著者 (ほそかわじゅんこ)：元神戸大学教授

(2005.3)

精神科における 病的多飲水・水中毒の とらえ方と看護

木村 英司 著

A5 判 128 頁 1,900 円 (本体価格)



ISBN978-4-902630-01-5

(2004.5) 現在 3 刷

20 年の経験 (訪問看護を含む) と思案が詰まった画期的労作。臨床看護研究の見事な成果! 病的多飲水・水中毒状態の患者の中では何が起きているのだろうか? 多飲水行動によって患者が必死に訴えているものは何か?……臨床実践と研究の試行錯誤を経て、著者はようやく納得できるケアの論理と患者理解に到達した。看護師がめざすべきケアの地平を切り開いていくプロセスの記録。

[主要目次]

1 章病的多飲水・水中毒に対する取り組みの軌跡 2 章病的多飲水・水中毒対策と看護 3 章病態へのアプローチ 4 章長期的管理—評価と予防 5 章在宅ケア 6 章病的多飲水・水中毒患者の心理を理解する試み

■著者 (きむらいいじ): 山形さくら町病院看護師長

書籍のご注文について

- ★全国の書店でお買い求めください。専門書店以外では棚にない場合が多いと思いますが、お取り寄せは必ず可能ですのでご注文ください。
- ★直接小社宛ご注文も承ります。郵便、FAX、E メール等でお申し付けください。代金後払、振替用紙 (払込料金小社負担) 同封にて直送します (送料: 200 円、2 冊以上同時注文は無料)。

すぴか書房

〒351-0114 和光市本町 2-6 レインボープラザ 602
TEL 048-464-8364 FAX 048-464-8336
メール chumon@spica-op.jp
郵便振替 00180-6-500068

インターネットのホームページもご覧ください。「ご注文」のページもあります。<http://www.spica-op.jp>